



No.106 2013・1・15

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM
発行 石川県立歴史博物館
〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836
http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/

ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れ
き
は
く

企画展

学 芸 員 の 眼 にとっておき
モノがたり



石川県鳥瞰図（能登部分）昭和7（1932）年 吉田初三郎筆

◇会 期 1月4日(金)～2月17日(日)

会期中無休

◇会 場 第1特別展示室

◇開館時間 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

◇入館料 一般 250円(200円)

大学生 200円(160円)

高校生以下無料/65歳以上200円

() 内は20名以上の団体料金

フロアトーク <要入館料>

日 時 1月12日(土)、26日(土)、2月9日(土)
いずれも午後2時から約30分

担 当 各コーナー担当学芸員

※学芸員(各回約3～4人)がリレー方式で、資料への「思い」を語ります。
※事前申し込み不要

企画展

学芸員の眼

—とっておきモノがたり—

当館は、昭和六十一年（一九八六）に開館し、ほぼ四半世紀の歴史を重ねてきました。この間、昭和四十三年（一九六八）の郷土資料館設立以降の収集活動を含め、約十七万点の資料を収蔵するに至っております。一方、北陸新幹線の平成二十六年年度末の金沢開業にともない、当館も、施設設備・展示のリニューアルを計画しており、しばらく全面的な改修工事のため休館期間に入ります。本展は、休館をひかえた歴史博物館最後の企画展となります。そこで、①私の「とっておき」、②思い出の展覧会という二つの視点から、当館コレクションと過去の活動をふりかえり、リニューアル後の「れきはく」の可能性をさぐります。

1. 私の「とっておき」

当館学芸員が、所蔵品の中から、それぞれの視点で「とっておき」の資料を三点（三件）選び、資料にまつわる「思い」と共に展示する企画です。名品・優品に限らず、リニューアルに向けて、多岐にわたる所蔵資料の価値を見つめます。展示品の内容は表のとおり。通常、展覧会はストーリーに沿って資料を並べるのですが、今回はあくまで学芸員の熱い「思い」を軸に展示します。千紫万紅の世界をど

うぞご期待ください。

2. 思い出の展覧会

昭和六十一年の開館以来、当館では石川県、さらには環日本海の歴史と文化をみつめるため、大小の展覧会を毎年五回程度開催してきました。現在までの開催数を合計すれば、百回以上となります。この中から、学芸員がとくに思い入れをもつ展覧会を紹介いたします。ここでは、ポスターに添える予定の学芸員のコメントを列挙しましょう。胸の奥にじっと秘めてきた思いが初めて明かされているかも。

「昭和モダン」展（平成元年度夏季特別展）

平成元年（一九八九）の夏、学芸員としてはじめて本格的に担当した特別展です。地域のモダニズムを多様な角度から紹介。本物のクラシックカーを借

りるなど、「バブルの時代」ならではの大胆なことも出来た展覧会でした。（本康宏史）

「アジアの芸能文化」展（平成二年度春季特別展）

紹介した資料はアジア十五か国の約四百点。資料選定のために、国立民族学博物館（大阪）の巨大収蔵庫へ何度も足を運びました。ところが開催直前になって転勤…。私にとってはちよつと悔いの残る展覧会でした。（前田武輝）

「魅惑の日本海文化」展（平成二年度秋季特別展）

はじめて外国の資料を借りて行なった展覧会でした。ポスターに掲げた冠の搬入が遅れ、やきもきするトラブルもありましたが、韓国国立中央博物館の協力により盛況でした。これを契機として、韓国側との交流が今も続いています。（戸淵幹夫）

「海に生きる」展（平成七年度新春企画展）

写真は御園直太郎さん（写真家）が昭和四十年（一九六五）に撮影。老いると

は円熟することだと教えてくれた作品です。ポスターに使う許可を得るため、御園さんとふたりで、珠洲のご本人宅へ伺いました。跡をつぐ息子さん夫婦が出迎えてくれました。（大門哲）

「能登仏像紀行」展（平成十五年度秋季特別展）

美しい風景と仏像を一緒に展示したいと考え、能登各地を回り撮影した風景写真を仏像の脇



流聞軒其方狂歌絵日記 安永（1772～1781）頃
白沢流聞軒其方筆
金沢城下の文化情報が満載！ 初公開



野鍛冶屋の製品 明治末期～昭和中期
かつてはすべてが手作り 初公開

に飾りました。ポスターの海は早朝に鞍崎灯台から撮影したもので、仏像は旧内浦町の万福寺所蔵の如意輪観音坐像です。
 (本谷文雄)

「肖像画にみる加賀藩の人々」展 (平成二十一年度春季特別展)

苦勞した点が思い出されます。それは、所蔵先が五十箇所を越え、集荷や返却にあたり、所蔵者との日時の調節がうまくいかず、予定外に日数がかかったことです。殊に集荷では揺れる車の中で図録の校正をするなど、そのため若干の見落としがでてしまいました。
 (北春千代)

「KOSODE 百・華・繚・乱―丸紅所蔵衣裳名品展―」(平成二十一年度特別企画展)

小袖の華やかさを伝える斬新なデザインを、とこだわって作ったポスターです。しかし裏方では、デリケートな染織品を相手に、調査から展示まで緊張の連続でした。資料保存のため会期半ばで全ての展示品を入れ替えたため、作業量も二倍になってしまいました。
 (大井理恵)

「本願寺」展 (平成二十一年度秋季特別展)

何ととっても、規模の大きさ、国宝・重要文化財資料の数が規格外でした。特別展示室を増設して展示面積を広くする一方、毎週一回は展示替えを行ない資料の「健康管理」にも気を遣いました。
 (濱岡伸也)

「シャルジャ、砂漠と海の文明交流」(平成二十二年度春季特別展)

当館では珍しい海外からの出品で、アラビア半島

の考古資料等を紹介した展覧会。航空便で無事に展示品が届くのか、下手な英語が通じるのか、暗中模索の準備にわれ、開幕を祈願して「開け！ゴマ」と言いたくなりました。



「シャルジャ」展ワークショップ風景
 平成22年(2010)4月

「学芸員の眼」出品資料一覧

担当者50音順

担当学芸員	資料名称	点数	備考
岩島千津代	渤海瓦	6点	
	末松魔寺瓦	4点	
	埋蔵銭	1組	
大井理恵	俳諧炭俵図屏風	1双	
	土蔵破風飾(龍鏝絵)	1点	
	裁縫お細工物	26点	
北春千代	六十余州名所図會「能登瀧之浦」	1枚	
	福祿寿に紅白梅図	3幅	
	琴棋書画図屏風	1双	
塩崎久代	菱屋彦次日記	1冊	
	金沢城下図屏風	1双	石川県指定文化財
	流間軒其方狂歌絵日記	4冊	
大門哲	金魚売り道具	一式	
	ウナギ素潜り道具	一式	
	虫売り道具	一式	
戸潤幹夫	百万塔	1基	
	懸仏	5軀	
	難船絵馬	1面	複製
濱岡伸也	本阿弥光悦書状	1紙	
	佐々木泉景画帖(自讃歌画帖)	1帖	
	兼六園絵巻	1巻	
前田武輝	蕎麦屋「砂場」看板	一式	
	弁当箱	一式	重要有形民俗文化財含む
	野鍛冶道具	一式	
三浦俊明	土偶	5点	
	江沼郡山背郷計帳	1点	複製
	ネコイヅミ	2点	
本谷文雄	桜花に流水図象眼鏡	1双	
	花鳥獸文薄端	1対	
	日本万国博覧会回数入場券	1組	
本康宏史	石川県鳥瞰図	1点	
	からくり飛び蛙	1点	
	鞍信一コレクション蓄音機	1点	
		計	33件

「平和と繁栄―石川の歴史と文化―」(平成二十三年度全州博物館姉妹館交流二十周年記念特別展)
 石川の江戸時代をテーマとした展覧会です。韓国のスタッフが見守り、取材カメラがまわる中での甲冑の展示は、かなりのプレッシャーでした。展示内容等について韓国の学芸員と議論したことも大きな糧になりました。
 (塩崎久代)

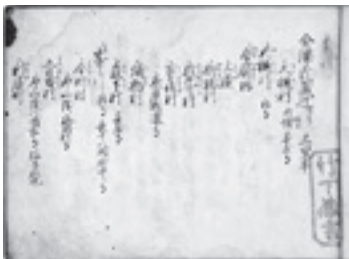
(三浦俊明)

平成二十四年度の収蔵資料

今年度は、新たに購入した「武田友月作能面」二面、「出府駅名所拔萃記」一冊、「小松祭礼図」一式に、「堀本松雄採集考古資料」一八一〇点を始めとする寄贈資料を加え、合計五十六件二二二六点を収蔵いたしました。貴重な資料をご寄贈下さった皆様のご厚意に心より御礼申し上げます。今年度から博物館リニューアルオープンまでの間、毎年開催してまいりました新収蔵品展「れきはくコレクション」は開催いたしません、本紙面に新収蔵資料名と寄贈者のご芳名を掲載させていただきます、これに代えてさせていただきますので、どうかご了承下さい。



堀本松雄採集考古資料



出府駅名所拔萃記



武田友月作能面 (2)



武田友月作能面 (1)

平成24年度収蔵資料一覧 (平成24年12月末 現在)

資料名称	点数	寄贈者 (敬称略)
考古資料		
堀本松雄採集考古資料	1810	堀本吉明
縄文土器 深鉢	1	石川考古学研究会
縄文土器 深鉢	1	石川考古学研究会
石皿	1	石川考古学研究会
骨角製釣針	1	石川考古学研究会
土偶	1	石川考古学研究会
石棒	1	石川考古学研究会
石棒	1	石川考古学研究会
石冠	1	石川考古学研究会
柱状片刃石斧	1	石川考古学研究会
磨製石鏃	1	石川考古学研究会
銅鏃	1	石川考古学研究会
弥生土器 高坏	1	石川考古学研究会
弥生土器 高坏	1	石川考古学研究会
土師器 壺	1	石川考古学研究会
須恵器 碗	1	石川考古学研究会
須恵器 鉢	1	石川考古学研究会
瓦塔	1	石川考古学研究会
宮野遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
小原遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
吉崎・次場遺跡出土資料	9	石川考古学研究会
寺中遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
畝田遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
月影遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
大桑橋遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
越坂城ヶ崎遺跡出土資料	一括	石川考古学研究会
観法寺瓦窯跡出土資料	一括	石川考古学研究会
若緑3号窯跡出土資料	一括	石川考古学研究会
末窯跡群出土資料	一括	石川考古学研究会

資料名称	点数	寄贈者 (敬称略)
寺社カメワリ坂窯跡群出土資料	一括	石川考古学研究会
郷カマノマエ窯跡群出土資料	一括	石川考古学研究会
鳥屋尾窯跡群出土資料	一括	石川考古学研究会
土偶	1	橋本澄夫
弥生土器 甕	1	橋本澄夫
弥生土器 器台	1	橋本澄夫
赤浦遺跡出土資料	一括	橋本澄夫
高島遺跡出土資料	一括	橋本澄夫
岩屋遺跡出土資料	一括	橋本澄夫
二宮2号墳出土資料	一括	橋本澄夫
歴史資料		
内田政風肖像写真	1	内田悟
初日カバー(切手)	75	多智守
古銭資料	124	長崎由美子
永井柳太郎自筆絵葉書	1	村井利次
尋常小学校准訓導心得辞令	1	村井利次
金沢医学専門学校卒業記念写真帖	1	竹内美幾
尾山篤二郎短冊他	6	松田房徳
中橋徳五郎記念章	1	松田房徳
高橋家資料	61	高橋兼司
出府駅名所拔萃記	1	購入
美術資料		
刀 (越中守藤原高平)	1	高橋兼司
黒石地塗打刀拵	1	高橋兼司
刀 (賀州済藤原家平作)	1	高橋兼司
黒石地塗鞘刀拵	1	高橋兼司
刀 (加州住出羽守高平)	1	高橋兼司
武田友月作 能面	2	購入
小松祭礼図	一式	購入
寄贈・購入資料合計	2136	

秋のバスツアー「深秋の美濃白鳥-白山信仰の里を訪ねて」

十月十日、下馬地蔵尊を起点に天徳院、如来寺、経王寺というそれぞれ宗派の違う寺院を巡りました。狭いエリアに集中し移動距離があまりないので、時間に余裕を持って見学できるだろうと考え



山里では秋が深まりつつあった十一月五日、白山信仰の拠点の一つとなった美濃馬場から石徹白へ禅定道を辿りました。美濃馬場の歴史を伝える長滝白山神社と白山長滝寺、美濃禅定道の重要な中継地であった石徹白の白山中居神社、そして大師堂では現地の方々から丁寧な説明をいただき、白山信仰について新たな視点を

秋の歴史散歩「小立野 前田家ゆかりの寺をたずねて」

お忙しい中、ご住職からも説明をいただき、内部の拝観や一般に公開していない仏画などの文化財を特別に見学させていただくなど、ご配慮いただいたことを深く感謝申し上げます。

十月十日、下馬地蔵尊を起点に天徳院、如来寺、経王寺というそれぞれ宗派の違う寺院を巡りました。狭いエリアに集中し移動距離があまりないので、時間に余裕を持って見学できるだろうと考え



催事日録

文化の秋ということ、あちこちでイベントなどが開かれていた十月二十八日、県内外から講師三名をお迎えして、十七回目となる歴史遺産セミナーが開催されました。第一部は、講師の方々が現地調査された時の逸話などを交えながら、渤海国の成立と発展、北陸と渤海国との交流について、時間がとも

十月二十九日、谷本県知事立ち会いのもと、韓国の国立全州博物館と当館とで、二〇一五年秋に特別展を開催する協定書を交わしました。この特別展は、当館がリニューアルオープン後に開催の予定で、朝鮮王朝時代の美術と生活文化を紹介するものになります。一昨年の秋には韓国全州市で、江戸時代の石川の社会と文化を紹介する特別展が開催され、高い評価を得ました。同じように、二〇一五年秋の特別展も多くの方に来ていただけるものにするため、これから具体的な準備に取り組んでいきます。



外国がテーマだったこともあつてか、特に興味のある方々が参加されたようで、第二部では専門的な内容でのパネルディスカッションとなりました。

文化の秋ということ、あちこちでイベントなどが開かれていた十月二十八日、県内外から講師三名をお迎えして、十七回目となる歴史遺産セミナーが開催されました。第一部は、講師の方々が現地調査された時の逸話などを交えながら、渤海国の成立と発展、北陸と渤海国との交流について、時間がとも



姉妹館交流だより～韓国全州博物館～

石川の歴史遺産セミナー「渤海研究の最前線」

平成二十五・六年度れきはくメイト 会員募集 一年分の会費で会員期間が約二年!!

月日	行事	内容
1/19(土)	れきはくセミナー	加賀藩と米 (資料課長 濱岡伸也)
2/1(金)	常設展示ワンポイント解説	真脇人のイルカ漁 (学芸主任 戸潤幹夫)
2/16(土)	れきはくセミナー	加賀国府を考える (学芸専門員 岩島千津代)

行事日程(1～2月) 休館期間中のれきはくメイト会員は、会費一年度分よりリニューアルオープン(平成二十七年春)前日まで約二年の会員期間となります。今回入会された方は平成二十六年度の更新手続きは必要ありません。これを機会にぜひご入会下さいませ ようお願いいたします。

〈対象〉どなたでも入会できます。 〈期間〉平成二十五年四月一日よりリニューアルオープン前日まで(約二年間) 会費 一、〇〇〇円 〈特典〉広報誌「石川れきはく」、情報誌「れきはくメイト情報」ほか歴博の最新情報が随時送付されます。休館期間中でも県内数箇所での移動展開催や、各種講座の開講(会場未定)、「歴史散歩」や「バスツアー」などの実施が予定されています。 〈入会受付〉一月中旬より随時受け付けています。ご希望の方は申込用紙に所定事項をご記入の上、会費を添えて当館総合力ウンターへ直接お申し込み下さい。郵送でお申し込みの場合は現金書留か定額小為替でお願いいたします。 〈申し込み・お問い合わせ先〉 当館普及課 TEL〇七六二二六二一三四一七

れきはく
トリヴィア

幻の「大改築構想」

お知らせのように、当館は、北陸新幹線の平成二
十六（二〇一四）年度末金沢開業に合わせて、全面
的なりニューアル準備に入っています。目下、施設
設備や展示の詳細を詰める作業の真つ最中ですが、
今回の改装では、展示室の配置などもかなり大胆に
変更する予定です。ただし、「軍都」金沢を代表す
る近代化遺産のひとつでもある当館は、平成二年
（一九九〇）に重要文化財に指定されたのちは、外
観はもとより内部の改築にもかなりの制限が求めら
れます。そこで今回は、四半世紀前（一九八六年）、
開館当時の大胆な「改築構想」をめぐる思い出をひ
とつご紹介しましょう。

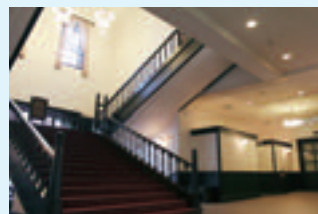


第一棟

当館が旧陸軍の兵器庫三棟を活用した博物館であ
ることは、すでにご承知かと思いますが、うち二棟
は、重文・国宝の展示も可能なように、赤煉瓦の壁
（皮）を残して、内部に鉄筋コンクリートのビルを
新たに建てるという改築
工法を取っています。こ
のため、開館から数年を
経た重文指定後に比べ、
開館時の改築は、平面プ
ランもかなり大胆な発想
が可能でした。しかも、
時代はまさにバブルの入
口、各地で立派なエント

ランスを誇る公立美術館・
博物館が競うように建て
られていた頃です。

当館も負けじと考えたの
が、長さ約九十メートル
の細長い建物を生かして、
妻側の入り口から反対側
の二階まで、ゆつくり
上昇しながら展示室に入っていくというエントラン
ス構想でした。延長約百メートルのエスカレーター
に乗って、吹き抜けの建物や屋根組の構造などを見
ながら、展示空間への期待感を高めるという趣向。
ちょうど、当時流行っていた「タイムトンネルを潜
つて、原始古代へ」とか、「スロープを下りたら、
歴史の入口」といった、派手な導入演出を意識して
いたのかもしれませんが、今考えてもなかなか魅力的
な発想だったと思うのですが、残念ながら、その
大胆なエントランスプランは、建設費もさることな
がら、メンテナンスの問題などもあって、早々にボ
ツ！（不採用）。架空のものとなった「エントラン
ス吹き抜け構想」は、かろうじて、第一棟中央入口
の階段ホールに「名残り」を見せています（写真参
照）。



第一棟中央階段

昨今の長期不況、地方財政の危機的状況下では、
リニューアルに際しても予算の切り詰めが「至上命
題」。展示設備や備品のどこをどう削るかの相談に明
け暮れる毎日です。さすがに、「百メートルの大エス
カレーター」は難しいとは思いますが、バブルの頃
の「大胆な発想」だけは、大切にしたいものです。

※トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識



広告

金融から見た地域の歴史を展示
金沢金融歴史資料館

（北陸銀行金沢支店内／平日9時～15時・入場無料）

明治10年8月26日 加賀藩 前田家の出資により創業

www.hokugin.co.jp

北陸銀行

お知らせ

リニューアル工事に伴う休館について

当館は、平成二十六年度末の北陸新幹線金沢開業にあわせた施設設
備・展示リニューアル工事をしています。これに伴い本年三月一日（金）
より全面休館いたします。休館中に開催予定の当館主催行事、リニュー
アルオープンの時期などにつきましては、公式ホームページでお知らせ
します。また休館中の本紙「石川れきはく」は年二回の発行を予定して
います。長期にわたる休館となり、皆様には大変ご不便をおかけいたし
ますが、何卒ご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

休館期間 平成二十五年三月一日（金）～平成二十六年度末（予定）
問い合わせ先 石川県金沢市出羽町三一一（現在地）
TEL 〇七六―一六二―三三三六
FAX 〇七六―一六二―一八三六
メール rekhaku@pref.ishikawa.lg.jp
ホームページ http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekhaku/